



V1.5 ユーザーガイド

VST RACK ELEMENTS

目次

はじめに	2
マニュアルの構成	2
ご注意	2
基本操作	3
VST Rack V1.5を起動する	3
ソフトウェアの操作	3
ファイルについて	4
画面構成	5
ツールエリア	5
サイドメニュー	6
MAIN画面	7
ラック	7
新しくプラグインをアサインする	9
プラグインウィンドウ	12
ツールエリア	12
A、B、C、D、ALL INPUT、ALL OUTPUT	14
SCENE画面	16
List画面	16
Recall Safe/Focus画面	19
Recall Safe	19
Focus	20
A、B、C、D、Overview	22
SETTINGS画面	23
Latency Group画面	23
MIDI Remote画面	26
Hardware画面	29
Preferences	31

はじめに

VST Rack Elementsは、ディレイ、マキシマイザー、リバーブなど、多彩なVSTプラグインエフェクトの使用による音声処理を実現する、MacとWindowsコンピューター用のプラグインホストソフトウェアです。NuendoやCubaseで定評のあるSteinberg社のオーディオエンジンを採用し、サウンドエンジニアに高品位かつ安定したプラグイン環境を提供します。

マニュアルの構成

- **VST Rack Elements V1.5 インストールガイド (PDF)**
VST Rack Elements V1.5のインストール方法について説明しています。
- **VST Rack Elements V1.5 ユーザーガイド (本書)**
設定や操作に必要なすべての項目を説明しています。
- **VST Rack Elements V1.5 プラグインリファレンス (PDF/HTML)**
プラグインのパラメーターの詳細を説明しています。

ご注意

- 本ソフトウェアおよび本ユーザーガイドの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- 本ソフトウェアおよび本ユーザーガイドの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- 本ソフトウェアおよび本ユーザーガイドを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、下記URLをご参照ください。
<https://www.yamahaproaudio.com/>
- 本ユーザーガイドに掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。画面には、VST Rack Elements V1.5に同梱されないプラグインも含まれています。
- SteinbergおよびVSTはSteinberg Media Technologies GmbH(以下「Steinberg」)の登録商標です。
- Steinberg、ヤマハおよび第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- 本ユーザーガイドに記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- 本ユーザーガイドは発行時点での最新仕様で説明しています。最新版はヤマハウェブサイトからダウンロードできます。



本アプリケーションを使用する際の接続については、接続する機器の取扱説明書をご参照ください。

基本操作

VST Rack V1.5を起動する



1. デスクトップ上のアイコンをダブルクリックなどしてVST Rack V1.5を起動します。起動時にライセンスが見つかった場合は、MAIN画面が表示されます。



- ・ 起動時にライセンスが見つからない場合は、Steinberg Activation Manager のエラー画面が表示され、アプリケーションが終了します。ライセンス認証を行ってからアプリケーションを再起動してください。
- ・ VST Rackで作成したプロジェクトファイル（拡張子.vstrack）をクリック（もしくはダブルクリック）してもVST Rackを起動できます。このとき、VST Rack起動後にファイルがロードされます。



- ・ 初回起動時や新しいプラグインを追加した場合は、起動に時間がかかります。
- ・ Mac使用時は、「システム環境設定」>「セキュリティとプライバシー」>「プライバシー」でマイクを許可しないとマイク入力できません。VST Rackを起動した後、許可を求められる場合があります。

ソフトウェアの操作

- ・ 各ソフトウェアの一部のノブやスライダー/フェーダーは、[Ctrl]/[command]キーを押しながらクリックすると、初期値に戻すことができます。
- ・ 各ソフトウェアの一部のノブやスライダー/フェーダーは、[SHIFT]キーを押しながらドラッグすると、値を細かく増減できます。

ファイルについて

VST Rackでは以下のファイルを使用します。

- **プロジェクトファイル(拡張子.vstrack)**: VST Rackのすべての設定が記述されているファイル。
- **Rackプリセット (拡張子.rackpreset)**: プラグインの構成と各プラグインのパラメータ値やラックのインプット、アウトプットゲインが含まれたファイル。

画面構成

ツールエリア

VST Rack V1.5の画面の切り替えやシーンの情報を表示します。



① Xボタン

VST Rackを終了します。
編集中のときは、保存を確認するダイアログが表示されます。

② -ボタン

VST Rackの画面を最小化します。

③ +ボタン

VST Rackの画面を最大化します。

④ Fileボタン

ファイルメニューを開きます。

ファイルのメニュー

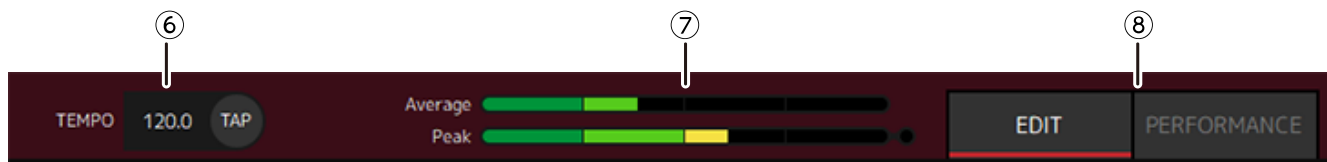
ボタン名	ショートカットキー	説明
New :	-	新規プロジェクトファイルを作成します。サブメニューから使用するラック数(16 Racks、32 Racks、48 Racks、64 Racks)を選択します。
Open :	Windows:[Ctrl]+[O] Mac:[command]+[O]	保存されているプロジェクトファイルを開きます。 ご注意 コンピューター内にインストールされていないプラグインを含むプロジェクトを開くと、そのプラグインはスロットにアサインされません。その状態からプロジェクトを上書きで保存すると、プラグインのアサイン情報は消えます。複数のコンピューター環境を使い分けるプロジェクトではご注意ください。
Save :	[Ctrl]/[command]+[S]	プロジェクトファイルを上書き保存します。
Save As :	[Ctrl]/[command]+A	プロジェクトファイルを別のファイルとして保存します。
About:	-	VST Rackのバージョン情報を記した画面を表示します。
Exit :	[Ctrl]/[command]+[Q]	VST Rackを終了します。

⑤ SCENE

カレントシーンを表示します。
クリックすると表示されるポップアップメニューでシーンをリコールできます。



SETTINGSでリコールの確認ダイアログを表示しないように設定することもできます。



⑥ TEMPO

ダブルクリックでTempoを入力できます。Tapボタンをクリックすると、Tap Tempoダイアログを表示します。Tap Tempoダイアログでは、クリックやキーボードのスペースキーでテンポを入力できます。

⑦ パフォーマンスメーター

Average (average load)	25%までは緑、50%までは黄緑、75%までは黄色、100%まではオレンジで表示します。
Peak (real time peak)	Peakに達すると右側に赤く点灯します。



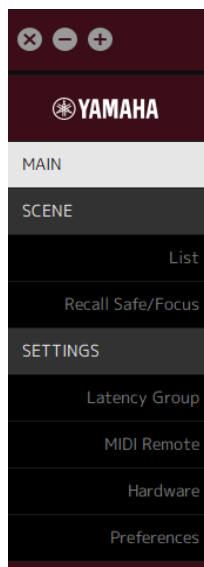
Peak (real time peak) はパフォーマンスメーターをクリックするまで赤点灯を消すことはできません。

⑧ EDIT/PERFORMANCEボタン

EDITモードとPERFORMANCEモードを切り替えます。

EDITモード選択時は、すべての編集ができます。EDIT中は背景色が赤になります。PERFORMANCEモード選択時は、音が途切れるような編集はできません。

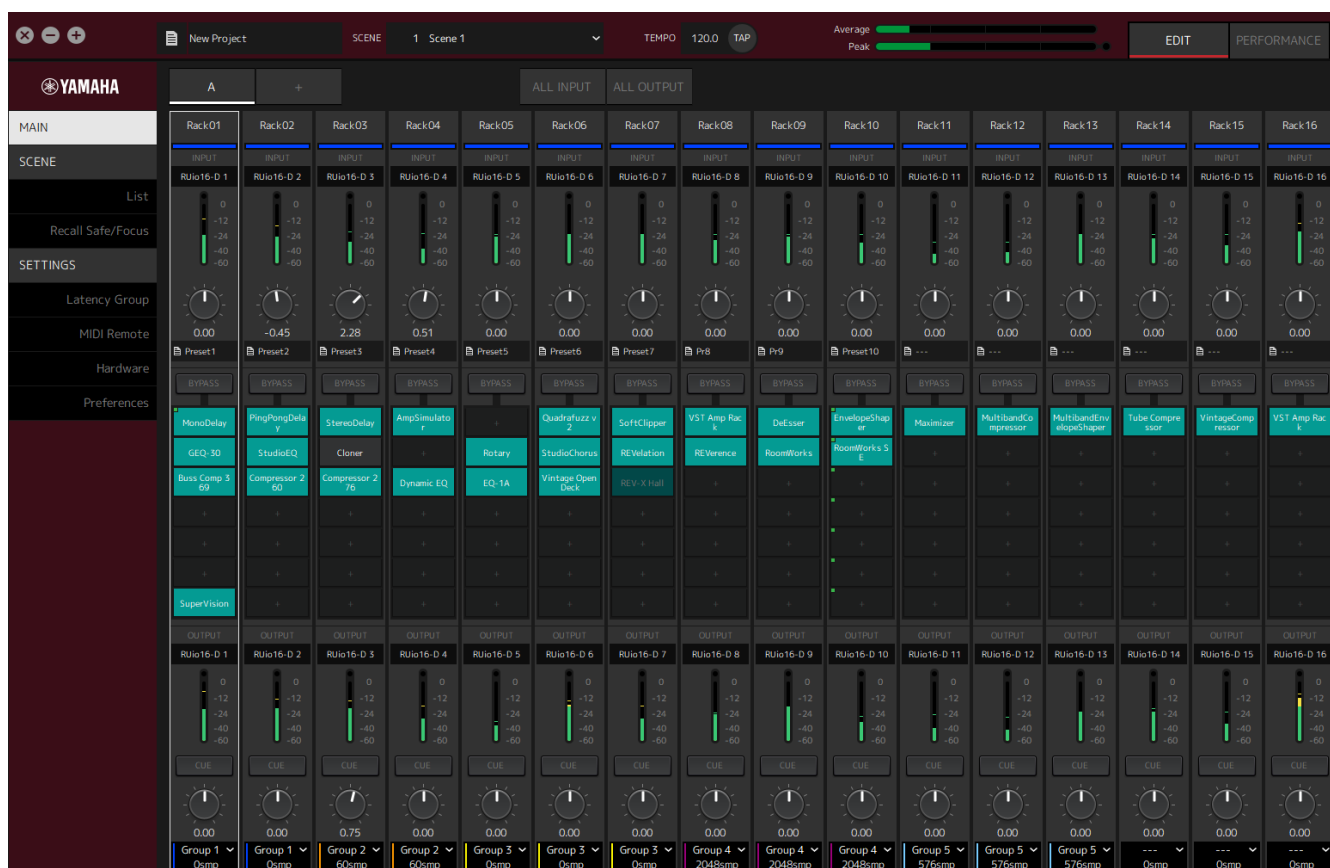
サイドメニュー



ボタン名	ショートカットキー	説明
MAINボタン	[Ctrl]/[command]+ [1]	ViewをMAIN画面に切り替えます。
SCENEボタン	[Ctrl]/[command]+ [2]	ViewをSCENE画面に切り替えます。
SETTINGSボタン	[Ctrl]/[command]+ [3]	ViewをSETTINGS画面に切り替えます。

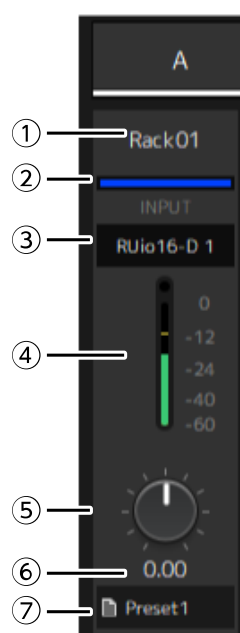
MAIN画面

MAIN画面は一般的なミキサーのコンソールにあたります。MAIN画面では、オーディオ入出力をラックという単位で扱います。



ラック

ラックは一般的なミキサーのチャンネルストリップにあたります。画面上部から画面下部へと信号の流れに沿って音声信号を処理することができます。



① ラック名

ラック名を表示します。ダブルクリックで編集します。

② ラックカラー

ラック毎に色を指定することができます。クリックでカラーパレットを表示します。

③ インプットチャンネル

ラックに設定されているインプットチャンネルを表示します。

④ インプットメーター

ラックへの入力信号レベルをメーターで表示します。

⑤ インプットゲインノブ

インプットゲインを調節します。ドラッグでゲインの値を変更します。

⑥ インプットゲイン値

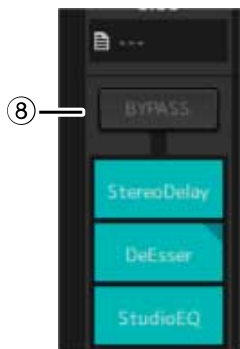
インプットゲイン値を表示します。ダブルクリックで入力できます。

⑦ ラックプリセット

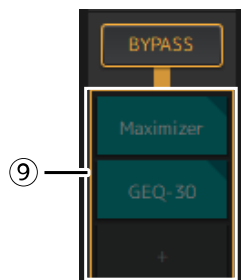
ラックにプリセットを使用した場合に、プリセット名を表示します。クリックで以下のメニューを表示します。

ラックプリセットのメニュー

設定	説明
Load Rack Preset	プリセットをロードします。
Save Rack Preset	現在のラックの状態をプリセットとして保存できます。
Factory Preset	あらかじめ用意されたプリセットをロードします。

**⑧ BYPASSボタン**

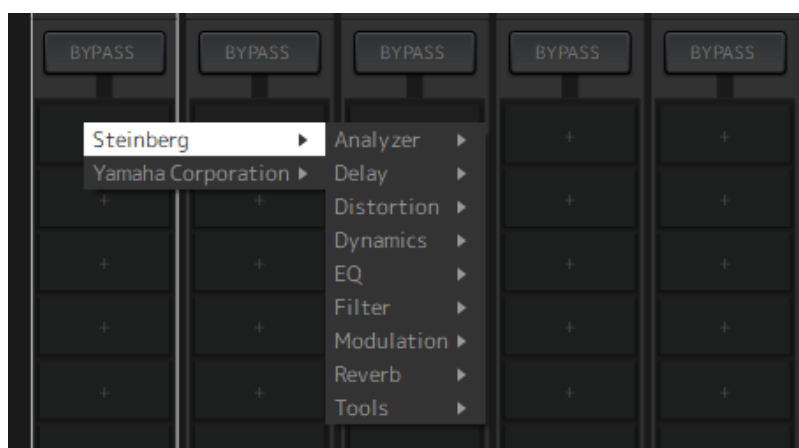
ラック全体のバイパスオンとバイパスオフを設定します。クリックで切り替えます。バイパスオン時はオレンジの枠囲みで表示します。



⑨ プラグインスロット

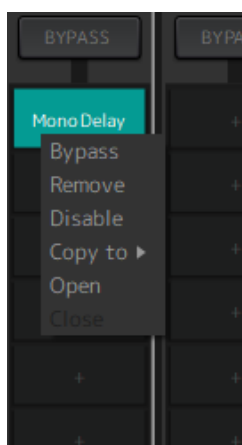
アサインされているプラグイン名を表示します。プラグインの設定をします。

新しくプラグインをアサインする



空のスロット上で左クリックしてプラグインリストを表示します。プラグインリスト中をドラッグで移動し、目的のプラグイン名をクリックしてアサインします。

プラグインをバイパス、削除、無効化、コピー、開閉する



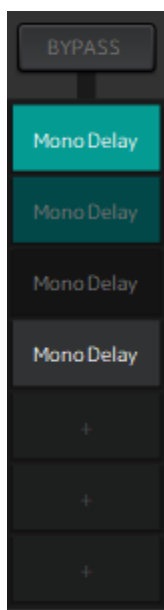
プラグイン名上で右クリックしてメニューを表示します。メニュー中をドラッグで移動し、目的の操作名をクリックして実行します。

プラグインのメニュー

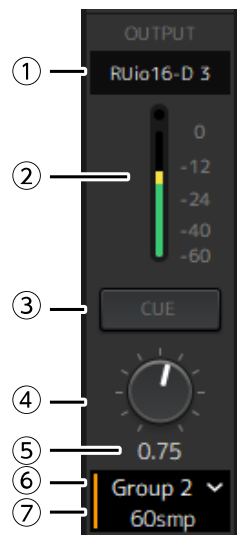
設定	説明
Bypass	プラグイン個別のバイパスオンとバイパスオフを設定します。プラグイン名にカーソルを合わせて[Alt]/[option]キーを押しながらクリックすることでも同じ操作ができます。
Remove	プラグインをスロットから取り除きます。
Disable(Enable)	プラグイン個別の有効と無効を設定します。
Copy to	プラグインをコピーします。コピーする内容にはすでに操作されたパラメータの値も含まれます。[Ctrl]/[option]を押しながらドラッグすることでもコピーできます。
Open	プラグインの操作画面(以降、プラグインウィンドウ)を開きます。プラグイン名でダブルクリックすることでも同じ操作ができます。
Close	プラグインウィンドウを閉じます。プラグインの操作画面上の(x)からも閉じることができます。

プラグインの表示について

プラグインごとのリコールセーフがかかっている場合は、左上にインジケータが点灯します。[Alt] / [option]キーを押しながら左クリックすると、プラグインごとのバイパスをオン/オフできます。また、左クリックすると、アサイン可能なプラグインリストが表示されます。プラグインの移動はドラッグして行います。



Mono Delay	バイパスオフかつ有効時
Mono Delay	バイパスオンかつ有効時
Mono Delay	バイパスオンかつ無効時
Mono Delay	バイパスオフかつ無効時



① アウトプットチャンネル

ラックに設定されているアウトプットチャンネルを表示します。

② アウトプットメーター

ラックから出力される音声信号の量を表示します。ピークに達すると赤い丸を表示します。

③ CUEボタン

「Settings」→「Hardware」→「Monitor」で設定したチャンネルに出力します。複数のラックのCUEボタンを同時にオンにできません。

④ アウトプットゲイン

アウトプットゲインを調節します。ドラッグでゲインの値を変更します。

⑤ アウトプットゲイン値

アウトプットゲイン値を表示します。ダブルクリックで入力できます。

⑥ レイテンシーグループ

レイテンシーグループ名を表示します。クリックで表示されたリストからレイテンシーグループを選択します。

⑦ レイテンシー値

ラックのレイテンシーを表示します。
右クリックで、サンプル単位かミリ秒単位に変更できます。

コンテキストメニュー

ラック上(プラグインスロット以外)で右クリックしてメニューを表示します。メニュー中の目的の操作名をクリックして実行します。

設定	説明
Clear Rack	すべてのプラグインスロットのアサインを削除します。
Copy Rack to	入力チャンネル設定、アウトプットチャンネル設定、CUE設定以外をコピーします。
Move Rack to	操作中のラックを、表示されるリスト内で選択したラックの前に移動します。Lastを選択すると、最後に移動します。

設定	説明
Pair (Unpair)	右隣のラックとペアを組んだり、ペアを解消します。左側のラックの設定が、ペアになったラック全体に反映されます。 ご注意 右側のラックの設定はペアを解消しても元に戻りません。
Reassign In/Out	先頭から順にチャンネルをアサインします。



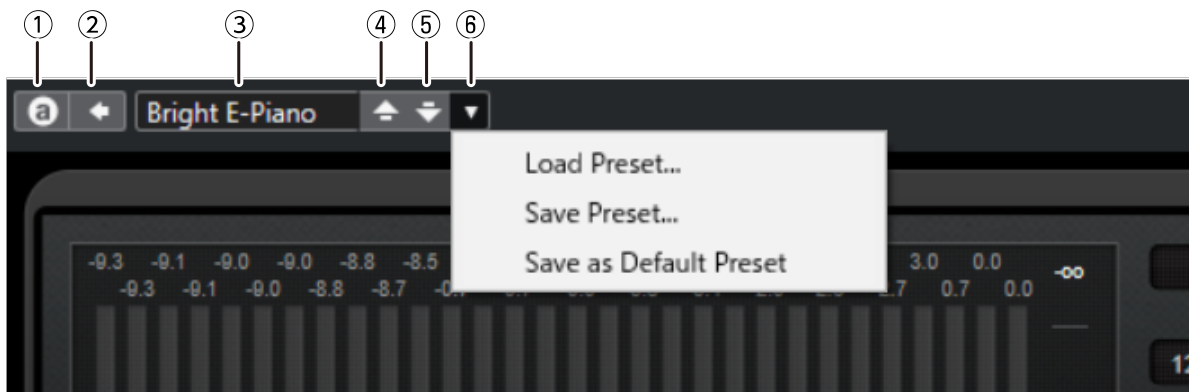
ラックを左右にドラッグして移動することもできます。

プラグインウィンドウ

プラグインウィンドウはプラグインの設定や、プラグイン上のパラメーターの操作をする画面です。ここではプラグインウィンドウのツールエリアについて説明します。各プラグイン固有のパラメーターは、VST Rack Elements V1.5プラグインリファレンスをご確認ください。

ツールエリア

ツールエリアはプラグインウィンドウの上部です。



① Switch A /B Settings ボタン

パラメーターをA(B)というセッティングから、B(A)というセッティングに切り替えます。AとBの2つのセッティングを比較しながら音作りができます。

② Apply Current Settings to A and B ボタン

現在のパラメーターを選択中のセッティング(AかB)に保存します。

③ Preset Name

プリセットを使用した場合に、プリセット名を表示します。クリックでプリセットリストを表示します。Results画面のメニューは以下です。

Results画面ツールバー

設定	説明
Back*	先に使用したフォルダーに移動します。
Forward*	次のフォルダーに移動します。

設定	説明
Up*	上位のフォルダーに移動します。
Include Folders and Subfolders*	フォルダーおよびサブフォルダーの内容を表示します。
Set up Result Columns	プリセットリストに表示する属性を選択できます。
Reset Filters	フィルターをリセットします。
Shuffle Results	プリセットリストをシャッフルします。
Update Results	プリセットリストを更新します。
Set up Window Layout	ウインドウレイアウトを設定します。 Location Treeにチェックを入れると、プリセットファイルの検索対象のフォルダーを表示します。Filtersにチェックを入れると、プリセットの属性を表示します。

*CubaseやNuendoで複雑な階層構造のプリセットを便利に表示するための機能です。VST Rackのプラグインのフォルダー構造はシンプルなため、操作しても画面に変化がおきないことがあります。

④ Load previous Program ボタン

プリセットリスト上で前にあるプリセットをロードします。

⑤ Load next Program ボタン

プリセットリスト上で後ろにあるプリセットをロードします。

⑥ Preset Management ボタン

クリックで以下のメニューを表示します。

プリセットマネジメントメニュー

設定	説明
Load Preset	プリセットをロードします。
Save Preset	プリセットを保存します。表示されたダイアログ上で、名前を入力します。
Save as Default Preset	新しくプラグインを起動した時の初期値を、現在のパラメーターの状態にします。



⑦ Function ボタン

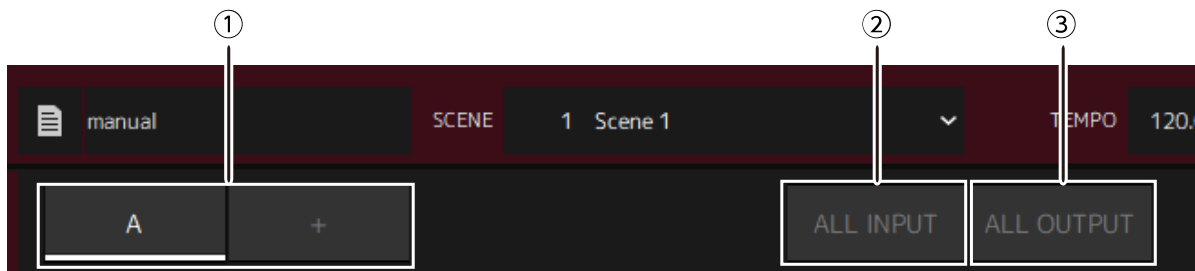
クリックで以下のメニューを表示します。

ファンクションメニュー

設定	説明	
Copy Setting	現在のパラメーターをコピーします。	
Paste Setting	コピーしたパラメーターをペーストします。	
Load Preset	プリセットをロードします。	
Save Preset	プリセットを保存します。表示されたダイアログ上で、名前を入力します。	
Reset to Default Preset	Save as Default Preset	新しくプラグインを起動した時の初期値(デフォルトプリセット)を、現在のパラメーターの状態にします。
	Remove Default Preset	デフォルトプリセットをインストール直後の値にします。
Switch to A/B setting	パラメーターをA(B)というセッティングから、B(A)というセッティングに切り替えます。	
Apply Current Settings to A and B	現在のパラメーターを選択中のセッティング(AかB)に保存します。	
About	バージョン情報などを表示します。	

A、B、C、D、ALL INPUT、ALL OUTPUT

MAIN画面ではラックの個数や、入出力の目的ごとに表示を切り替えることができます。



① A、B、C、Dバンクボタン

16のラックごとに表示を切り替えます。切り替えの単位はA、B、C、Dの4つのバンクです。+ボタンでバンクを追加できます。

② ALL INPUTボタン

入力に特化した表示に切り替えます。表示される項目は、ラック名、ラックカラー、インプットチャンネル、インプットメーター、BYPASS です。

③ ALL OUTPUTボタン

出力に特化した表示に切り替えます。表示される項目は、ラック名、ラックカラー、アウトプットチャンネル、アウトプットメーター、BYPASS です。

ラックについて

ラックをクリックするとそのラックが選択され、白枠で囲んで表示します。



ラックをドラッグしてバンク内で並び替えができます。このとき、チャンネルの割り当ては変化しません。1バンク内は Mono、Stereoにかかわらず最大 16ラックであり、別のバンクからの移動で 16ラックを超える場合は、バンク内の最後(一番右端のラック)は次のバンクに移動します。Pair を解消して 16ラックを超える場合も同様です。

ただし、以降のバンクが 16ラック分アサインされていて、次のバンクに移動できない場合は、移動先バンク内の先頭ラックが前のバンクに移動します。

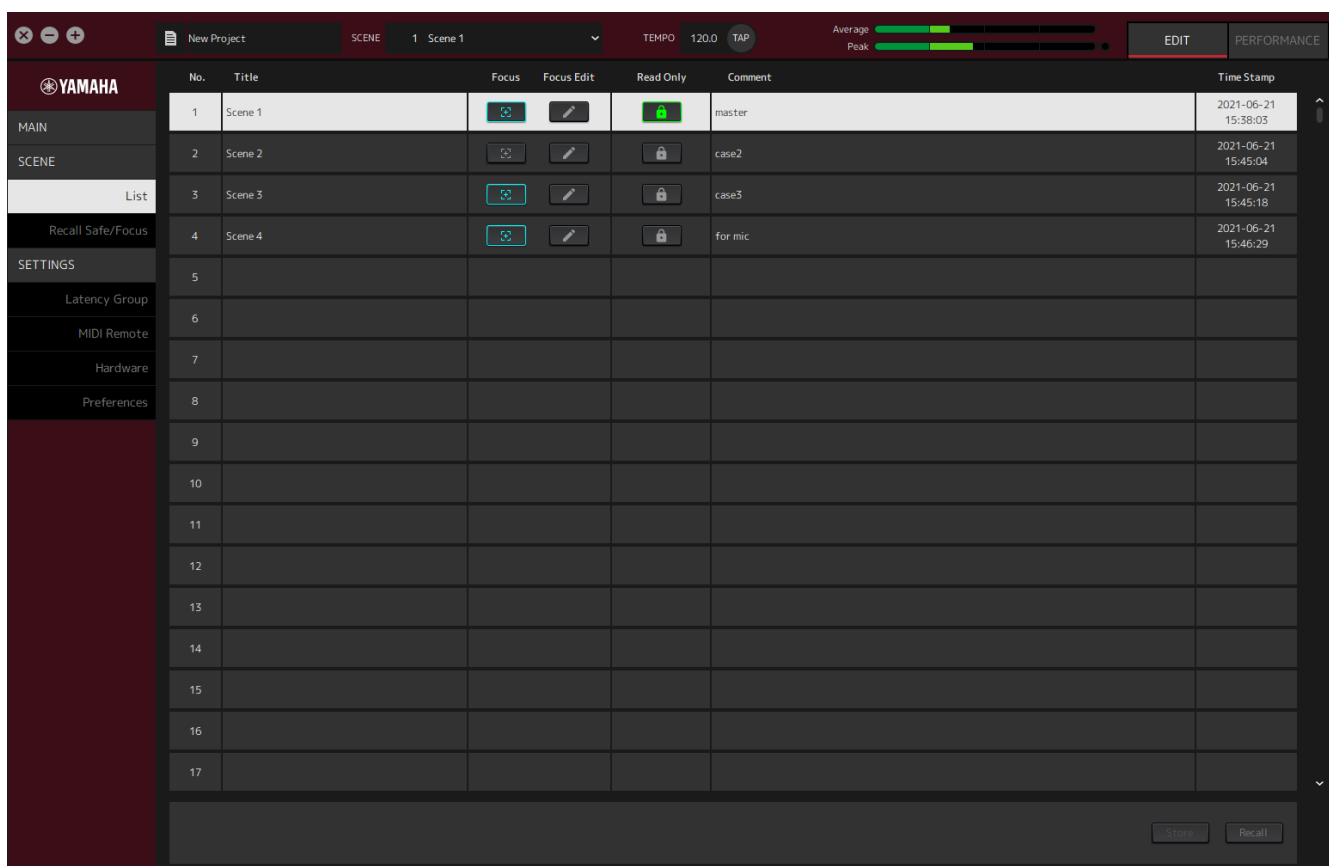
[Ctrl]/[option]キーを押しながらドラッグすると、インプット アウトプットチャンネル設定以外をコピーします。



64Racks表示中は、バンク外でも並び替えができます。










SCENE画面

SCENE画面ではプロジェクト内のシーンを管理します。



List画面

List画面ではシーンを編集します。シーンはプロジェクト内に保存されます。

①	②	③	④	⑤
No.	Title	Focus	Focus Edit	Read Only
1	Scene 1			
2	Scene 2			
3	Scene 3			

① シーン番号

シーン番号を表示します。

② Title

シーンのタイトルを表示します。ダブルクリックでダイアログ画面を表示します。ダイアログ画面でタイトルとコメントを入力します。シーンをストアすると、編集できるようになります。

③ Focusボタン

フォーカスします。クリックでオンオフを切り替えます。



フォーカスとは、シーンデータをリコールする際に、どのプラグインをリコールするかを選択できる機能です。

④ Focus Editボタン

フォーカスの設定をします。クリックでRecall Safe/Focus画面を開きます。

⑤ Protect(Read Only)ボタン

シーンのリコールとコピー以外の操作(保存や削除)をできなくします。クリックでオンオフを切り替えます。

⑥ Comment	⑦ Time Stamp
master	2021-06-21 15:38:03
case2	2021-06-21 15:45:04
case3	2021-06-21 15:45:18
for mic	2021-06-21 15:46:29

⑥ Comment

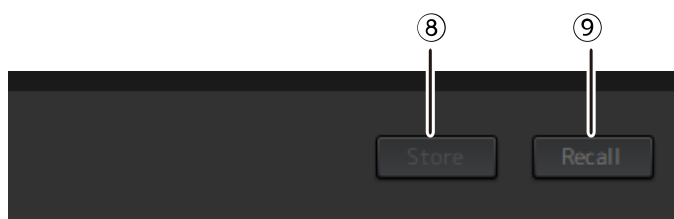
コメントを表示します。ダブルクリックでダイアログ画面を表示します。シーンをストアすると、編集できるようになります。



コメントは半角英数字のみ入力できます。

⑦ Time Stamp

日付を表示します。



⑧ Storeボタン

現在のプラグインのパラメーターをシーンとして設定をストアします。クリックでダイアログ画面を開きます。ダイアログ画面でタイトルとコメントを入力します。ラックにプラグインのアサインがないとストアはできません。シーンのプロテクトがオンだとストアはできません。

⑨ Recallボタン

シーンをリコールします。クリックでダイアログ画面を開きます。ダイアログ画面上でOKをクリックすると、リコールを実行します。

コンテキストメニュー

リスト上で右クリックしてメニューを表示します。メニュー中の目的の操作名をクリックして実行します。

設定	説明
Copy	選択したシーンをコピーします。
Delete	選択したシーンを削除します。シーンのプロテクトがオンだと実行できません。
Edit	選択したシーンのタイトルやコメントを編集します。シーンのプロテクトがオンだと実行できません。

Recall Safe/Focus画面

リコールセーフやフォーカスを設定します。ラック単位、プラグイン単位で設定できます。設定はプロジェクトに保存されます。

The screenshot displays the 'Recall Safe' and 'Focus' settings for 16 racks. The 'Recall Safe' section is divided into two columns: 'A' and 'B'. The 'Focus' section is divided into two columns: 'Scene 1' and 'master'. The 'Recall Safe' section shows various plugins like MonoDelay, PingPongDelay, StereoDelay, AmpSimulator, QuadFuzz v2, SoftClipper, VST Amp Rack, DeEsser, EnvelopeShaper, and Maximizer. The 'Focus' section shows Focus Recall buttons for each rack.

Recall Safe

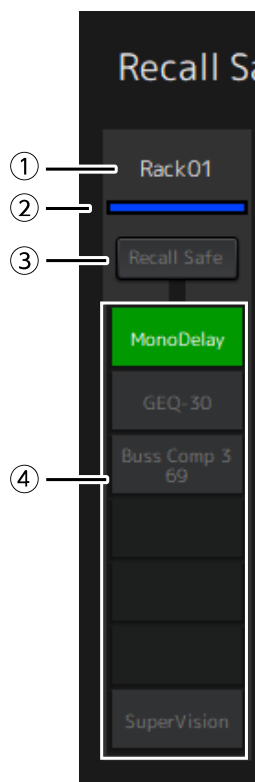
リコールセーフを設定します。



リコールセーフとは、プラグインに対してシーンメモリーがリコールされないよう保護(Safe)する機能です。リコールセーフの設定情報は、シーンデータから独立して保存されます。



シーン作成後にプラグインを追加した場合は、シーンにそのプラグインの設定は含まれないため、リコールされません。



① ラック名

ラック名を表示します。Recall Safe/Focus画面では、ラック名の編集はできません。

② ラックカラー

MAIN画面で指定したラックカラーを表示します。Recall Safe/Focus画面では、ラックカラーの指定はできません。

③ ラック全体のリコールセーフボタン

ラック全体のリコールセーフオンとリコールセーフオフを設定します。クリックで切り替えます。

④ プラグイン単位のリコールセーフボタン

プラグイン単位のリコールセーフオンとリコールセーフオフを設定します。クリックで切り替えます。

Focus

フォーカスを設定します。



フォーカスとはシーンごとにどのプラグインをリコールするかを設定する機能です。シーンデータの一部として保存されます。リコールセーフと重複して設定されている場合は、リコールセーフが優先されます。



① No.

シーン番号を表示します。

② -ボタン

表示を一つ下の番号のシーン情報にします。クリックで切り替えます。

③ +ボタン

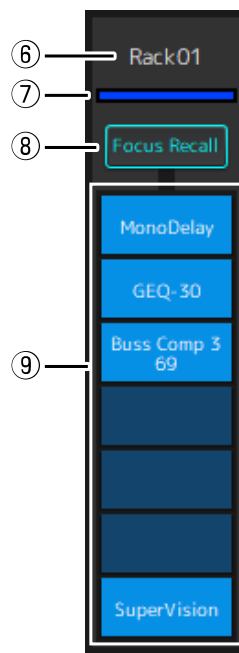
表示を一つ上の番号のシーン情報にします。クリックで切り替えます。

④ Title

シーンのタイトルを表示します。Recall Safe/Focus画面では、タイトルの編集はできません。

⑤ Comment

シーンのコメントを表示します。Recall Safe/Focus画面では、コメントの編集はできません。

**⑥ ラック名**

ラック名を表示します。Recall Safe/Focus画面では、ラック名の編集はできません。

⑦ ラックカラー

MAIN画面で指定したラックカラーを表示します。Recall Safe/Focus画面では、ラックカラーの指定はできません。

⑧ ラック全体のフォーカスリコール

ラック全体のフォーカスリコールオンとフォーカスリコールオフを設定します。クリックで切り替えます。

⑨ プラグイン単位のフォーカスセーフボタン

プラグイン単位のフォーカスリコールオンとフォーカスリコールオフを設定します。クリックで切り替えます。

A、B、C、D、Overview

Recall Safe/Focus画面では16ラックごとや、リコールセーフの状態に特化した表示に切り替えることができます。



① A、B、C、Dバンクボタン

16ラックごとに表示を切り替えます。切り替えの単位はA、B、C、Dの4つのバンクです。

② Overviewボタン

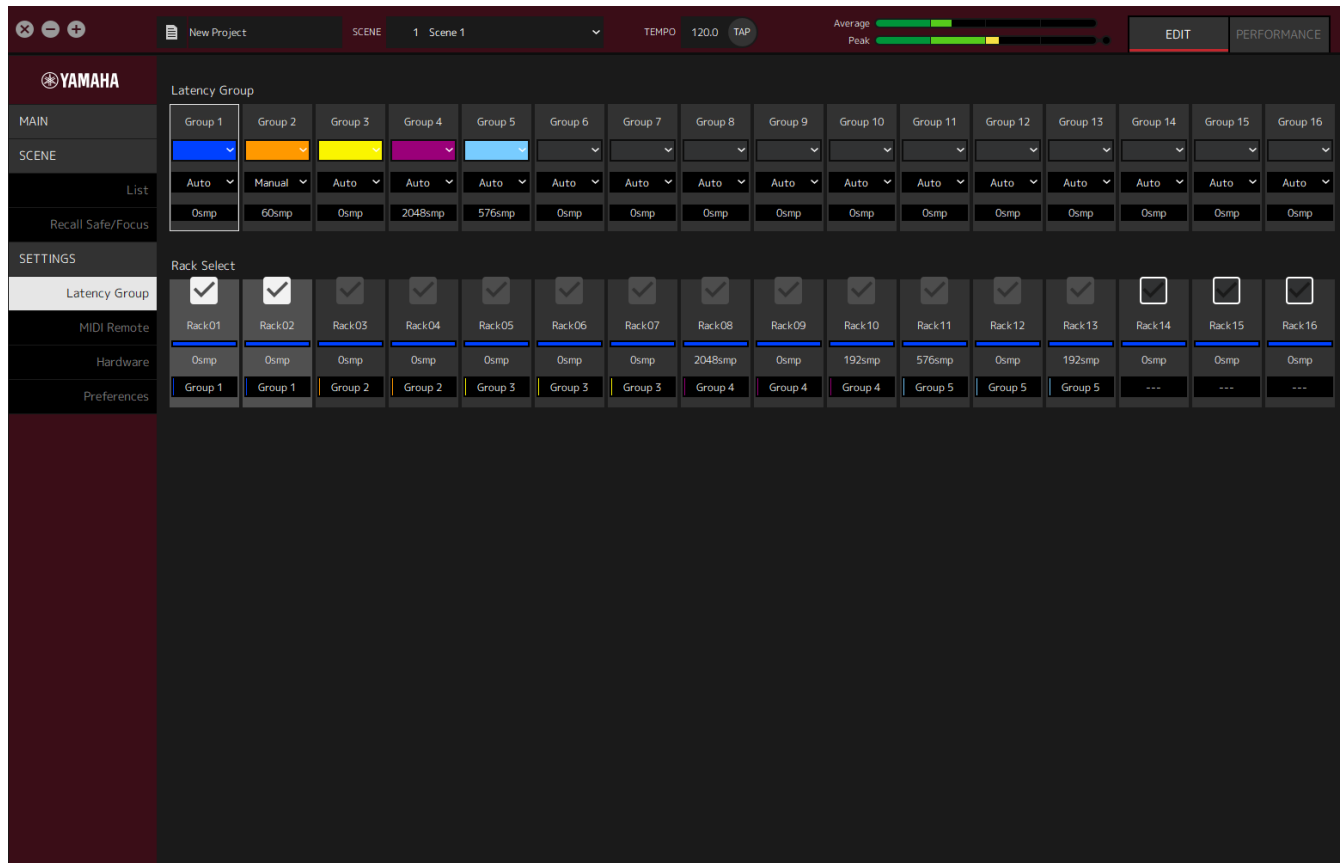
リコールセーフの状態に特化した表示に切り替えます。表示される項目は、ラック名、ラック全体のリコールセーフ状態、プラグイン単位のリコールセーフ状態です。

SETTINGS画面

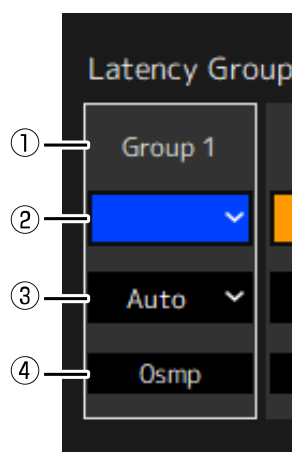
SETTINGS画面ではVST Rackの各種設定をします。

Latency Group画面

レイテンシーグループなどの設定をします。



Latency Groupフィールド



① レイテンシーグループ名

レイテンシーグループ名を表示します。ダブルクリックで編集します。

② レイテンシーグループカラー

レイテンシーグループ毎に色を指定することができます。クリックでカラーパレットを表示します。

③ レイテンシー補正方法

レイテンシーの補正方法を設定します。クリックで表示されたメニューから、クリックで選択します。

レイテンシー補正方法のメニュー

設定	説明
Auto	グループ全体のレイテンシーを、グループに含まれるラックのうちで最大のレイテンシーに合わせます。
Manual	レイテンシーの値をマニュアルで調節します。

④ レイテンシー

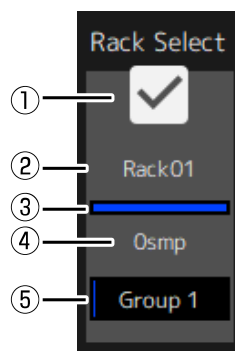
レイテンシーの値を表示します。レイテンシー補正方法がAutoのときは、グループに含まれるラックのうちで最大のレイテンシーを表示します。レイテンシー補正方法がManualのときは、ダブルクリックで数値を入力できます。

コンテキストメニュー

レイテンシー上で右クリックしてメニューを表示します。メニュー中の目的の操作名をクリックして実行します。

設定	説明
sample	レイテンシーをサンプル単位で表示します。
msec	レイテンシーをミリ秒単位で表示します。

Rack Selectフィールド



① ラックセレクトチェックボックス

グループに属していないラックのチェックボックスを選択すると、グループに追加します。ハイライト表示のラックをクリックすると、グループから外せます。

グループ アサイン済	グループ 未アサイン	他グループ アサイン済

② ラック名

ラック名を表示します。Latency Group画面では、ラック名の編集はできません。

③ ラックカラー

MAIN画面で指定したラックカラーを表示します。Latency Group画面では、ラックカラーの指定はできません。

④ レイテンシー

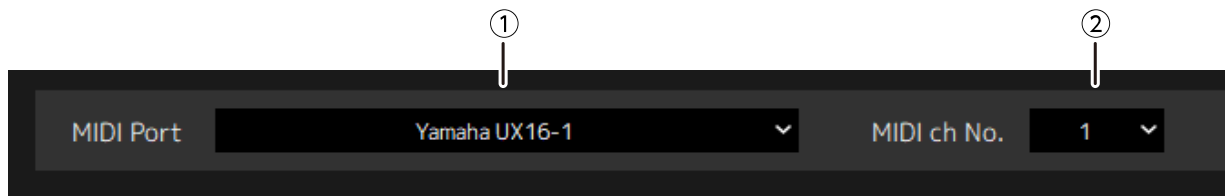
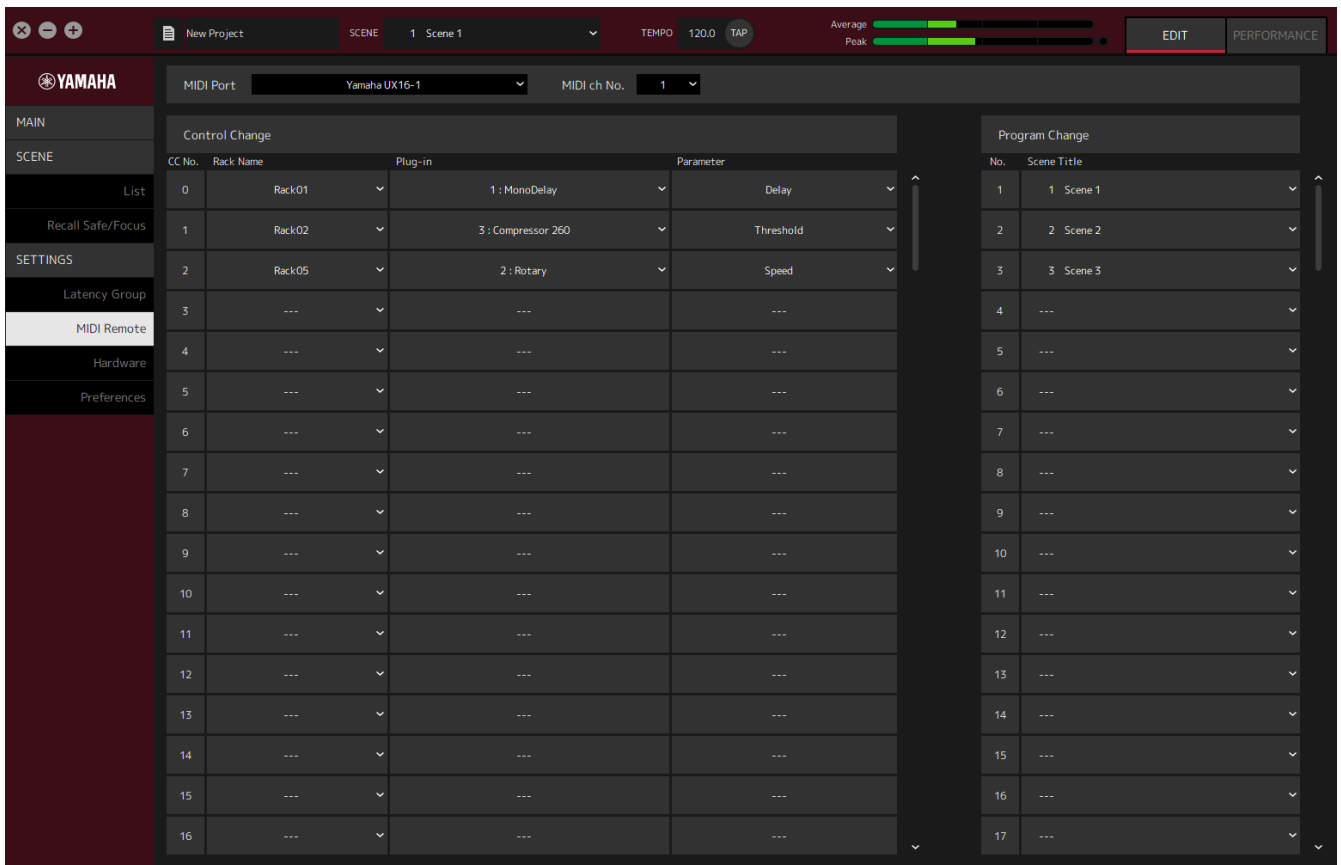
ラックのレイテンシーの値を表示します。

⑤ レイテンシーグループ名

ラックが所属するレイテンシーグループ名を表示します。

MIDI Remote画面

リモートの設定をします。



① MIDI Port名

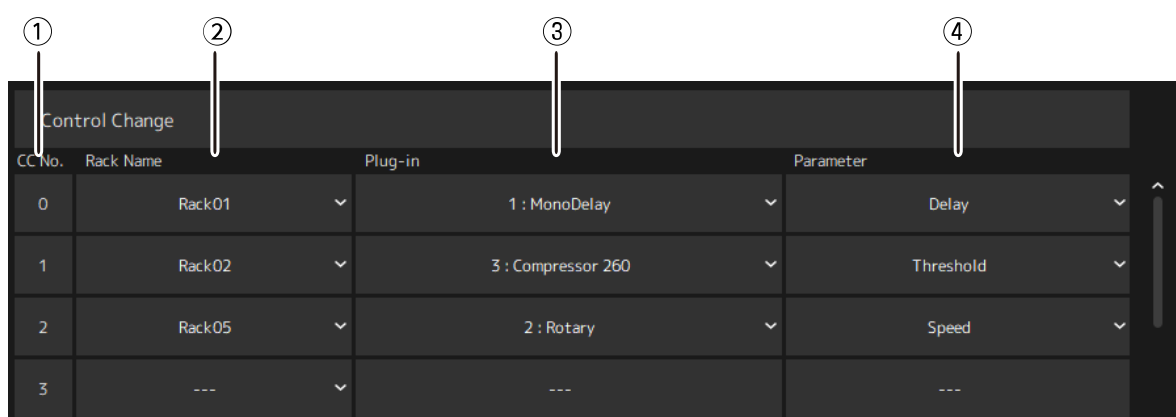
MIDI Port名を表示します。クリックで表示されたメニューから、クリックで選択します。VST Rack全体の設定として保存します。

② MIDI ch No.

MIDIチャンネルナンバーを表示します。クリックで表示されたメニュー中の1~16から、クリックで選択します。VST Rack全体の設定として保存します。

Control Changeリスト

MIDI機器からコントロールチェンジメッセージを受信したときに、対応するパラメータを変更できます。



① CC No.	② Rack Name	③ Plug-in	④ Parameter
0	Rack01	1 : MonoDelay	Delay
1	Rack02	3 : Compressor 260	Threshold
2	Rack05	2 : Rotary	Speed
3	---	---	---

① CC No.

コントロールチェンジナンバーを表示します。

② Rack Name

ラック名を表示します。クリックで表示されたメニューから、ラック名をクリックで選択します。

③ Plugin

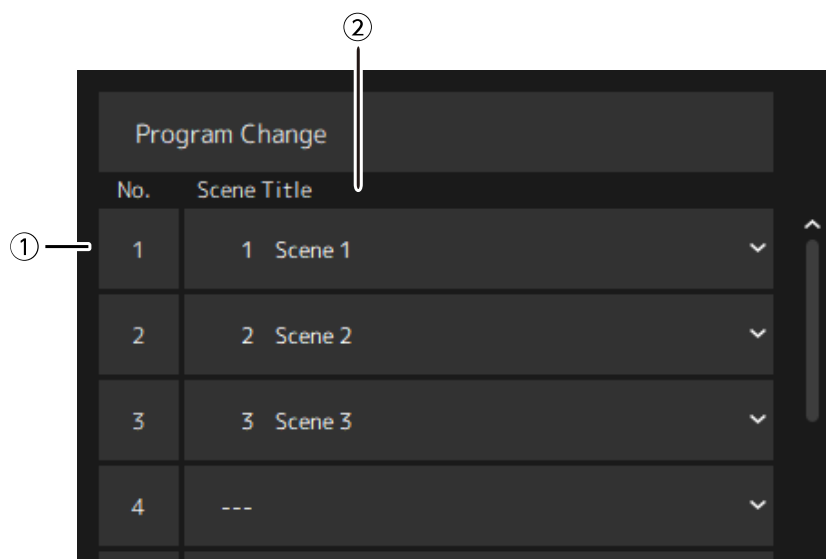
プラグイン名を表示します。クリックで表示されたメニューには、Rack Nameで指定したラック中のプラグインがリストで表示されます。プラグイン名をクリックで選択します。

④ Parameter

パラメーター名を表示します。クリックで表示されたメニューには、Pluginで指定したプラグイン中のパラメーターがリストで表示されます。パラメーター名をクリックで選択します。

Program Changeリスト

MIDI機器からプログラムチェンジメッセージを受信したときに、対応するシーンをリコールできます。



① No.

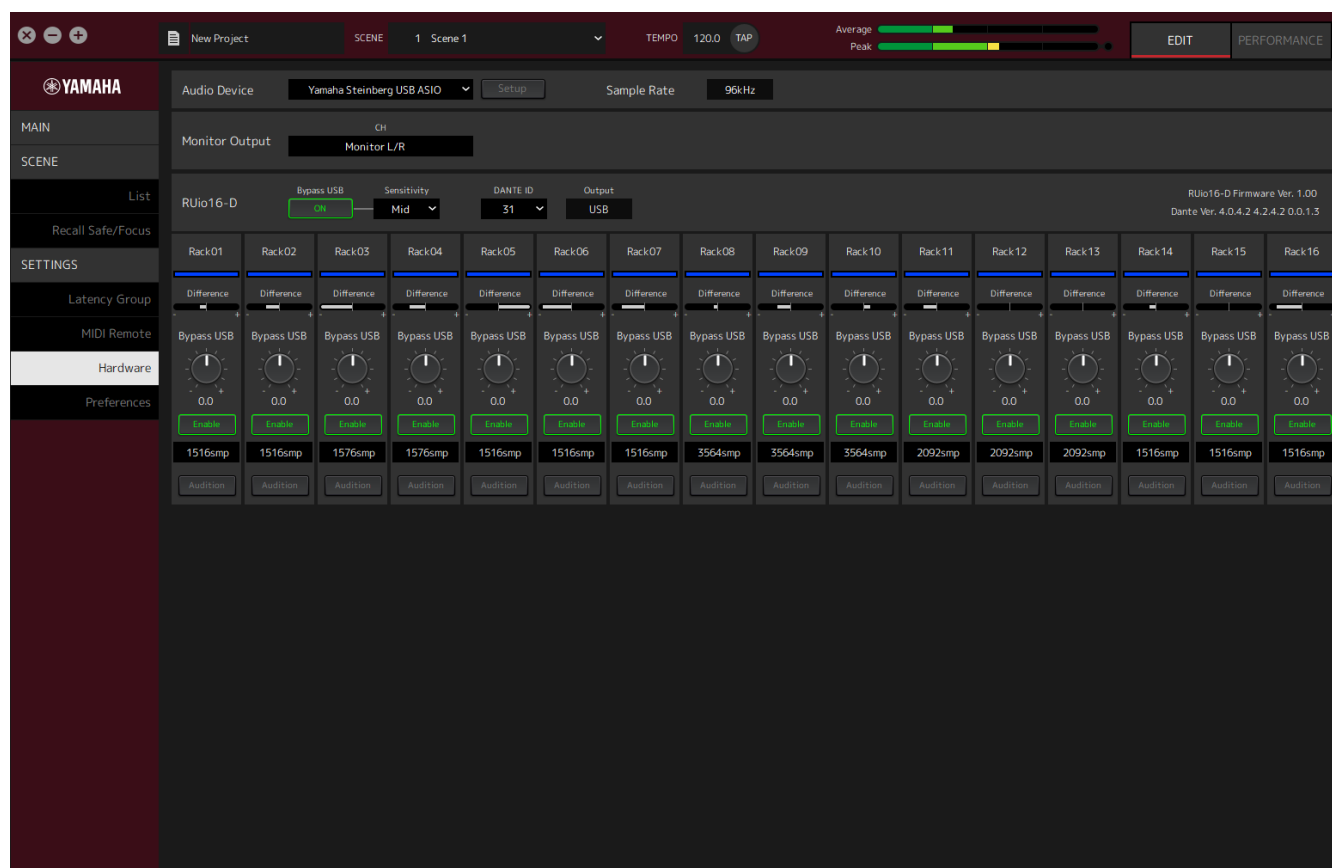
プログラムチェンジナンバーを表示します。

② Scene Title

プログラムチェンジナンバーに対応したシーンのタイトルを表示します。クリックで表示されたメニューには、作成したシーンがリストで表示されます。シーンのタイトルをクリックで選択します。

Hardware画面

オーディオデバイスの設定をします。



① Audioデバイス

オーディオデバイス名を表示します。クリックで表示されたメニューから、デバイス名をクリックで選択します。

② Setupボタン

クリックするとダイアログを開きます。ダイアログ内にあるControl Panelボタンをクリックすると、オーディオデバイスのコントロールパネルを表示します。コントロールパネルでオーディオドライバーの設定を変更します。



バッファサイズの調整はコントロールパネルで行います。

③ Sample Rate

サンプリング周波数を表示します。



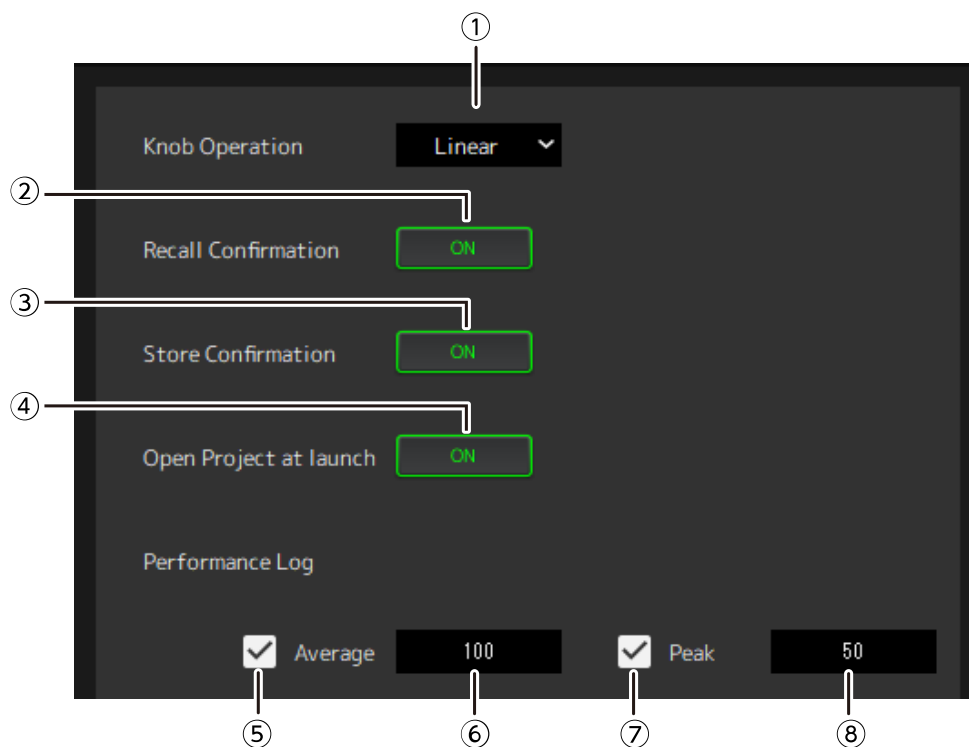
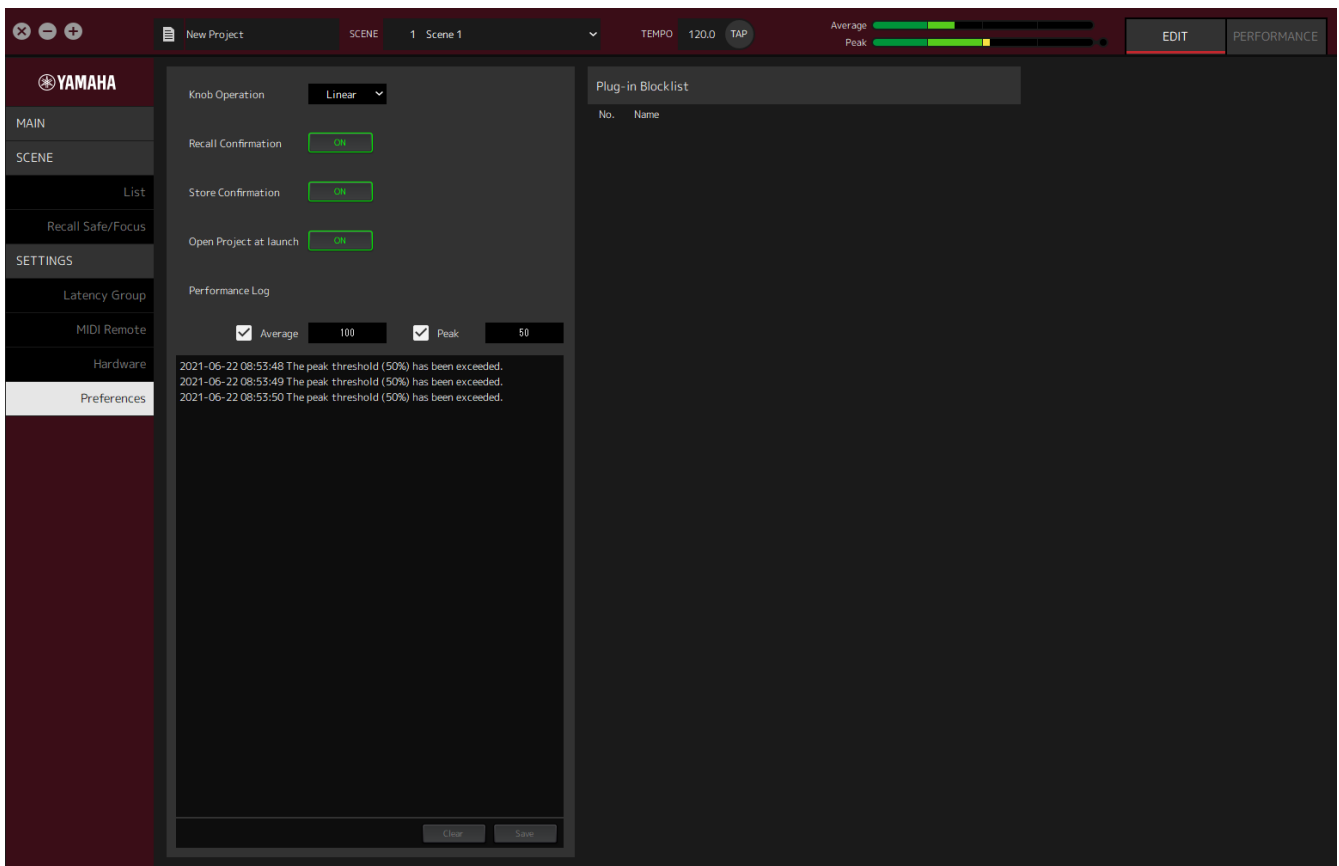
VST Rackでは44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHzのみサポートしています。設定変更はDante Controllerから行います。

④ Monitor Output

MAIN画面のCUEボタンを押したときに出力するチャンネルを表示します。クリックで表示されたメニューから、チャンネルをクリックで選択します。

Preferences

VST Rackの設定をします。



① Knob Operation

ノブのドラッグ方法を表示します。クリックで表示されたメニューから、ドラッグ方法をクリックで選択します。

ノブオペレーションメニュー

設定	説明
Rotary	ノブを回すようにドラッグして値を変更します。
Linear	上下もしくは左右にドラッグして値を変更します。

② Recall Confirmationボタン

リコール時に確認メッセージを出します。クリックでオンオフを切り替えます。

③ Store Confirmationボタン

ストア時に確認メッセージを出します。クリックでオンオフを切り替えます。

④ Open Project at launch

起動時に前回開いていたプロジェクトを読み込むかどうかを設定します。クリックでオンオフを切り替えます。

⑤ Performance Log Averageチェックボックス

Averageのパフォーマンスメーターが閾値を越えたときのログを記録します。クリックでオンオフを切り替えます。ログは⑩パフォーマンスログリストに表示されます。

⑥ Performance Log Average閾値

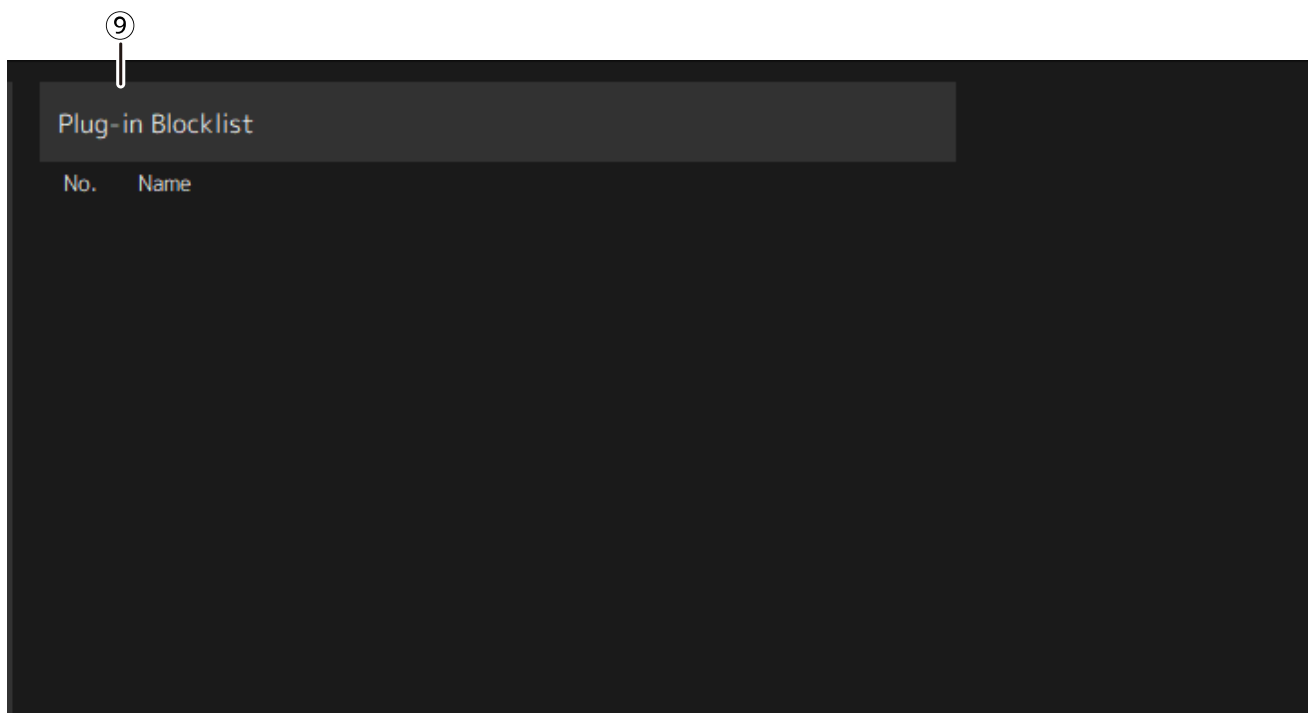
Averageのパフォーマンスメーターの閾値を表示します。クリックで編集します。

⑦ Performance Log Peakチェックボックス

Peakのパフォーマンスメーターが閾値を越えたときのログを記録します。クリックでオンオフを切り替えます。ログは⑩パフォーマンスログリストに表示されます。

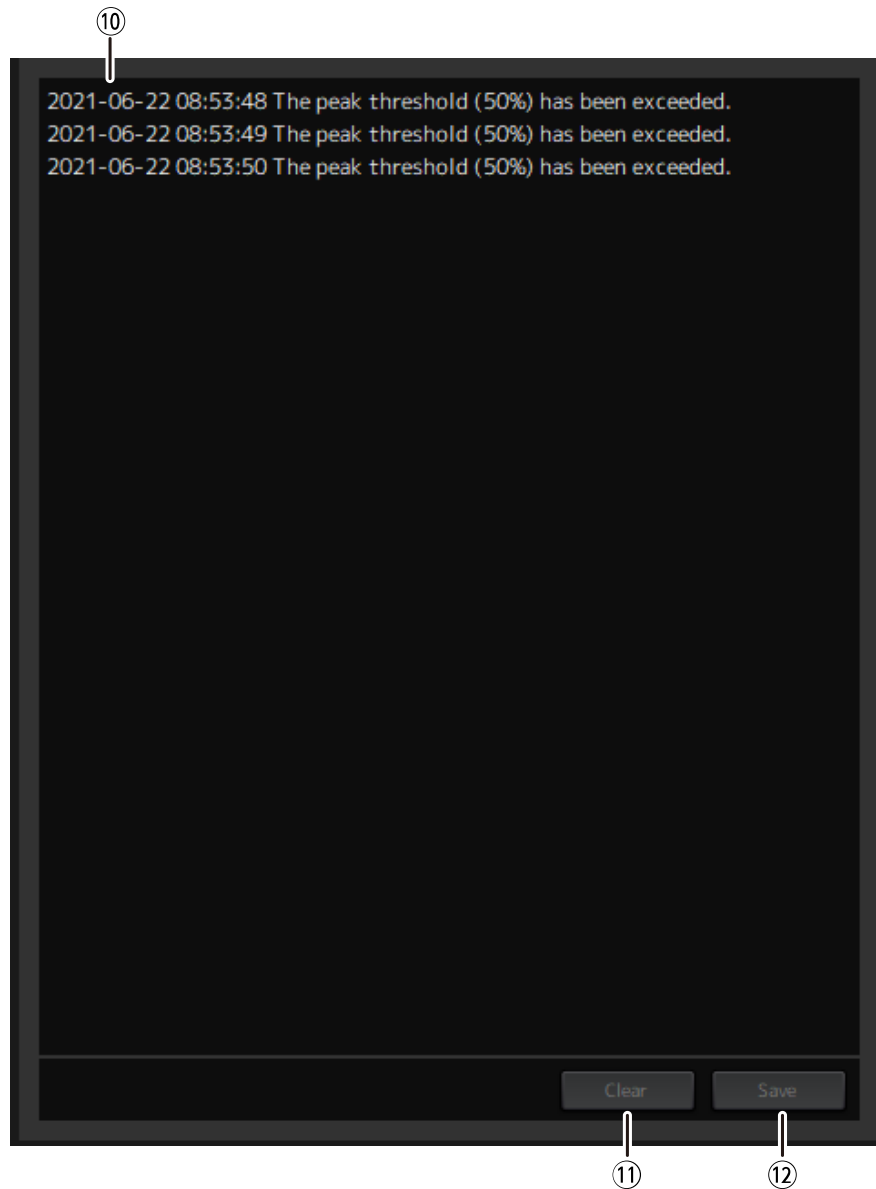
⑧ Performance Log Peak閾値

Peakのパフォーマンスメーターの閾値を表示します。クリックで編集します。



⑨ Plug-in Blocklist

以前にクラッシュしたプラグインや、対応していないプラグインをリスト表示します。



⑩ パフォーマンスログリスト

設定した閾値を越えた記録を表示します。

⑪ Clearボタン

すべてのログを消去します。

⑫ Saveボタン

ログを保存します。形式は日、時刻、メッセージを含んだCSV形式です。

